

## 5 行財政に関する疑問にお答えします



**Q1.** 「子育て日本一」を実感できるまちづくりを実現するため、子育て・教育の施策にどのように取り組んでいるのですか？

**A1.** 平成19年10月に子ども家庭局を新設するとともに、放課後児童クラブの全児童化・乳幼児等医療費支給制度の充実など様々な施策を実施してきました。  
平成23年度も、現在小学6年生までとなっている入院医療費の自己負担額の助成を10月からは、中学3年生まで拡大します。また、保育所が不足する地域に民間保育所を設置するなど、保育サービスの拡充を行うとともに、児童1人当たりの保育士配置基準の拡充を市の独自施策として実施します。  
さらに、学校図書館の充実、特別支援教育の充実と体制整備など学校教育に対する施策の充実も着実に進めています。



**Q2.** 保健福祉行政に対する要望は多いと思いますが、重点的に取り組んでいることは何ですか？

**A2.** 本市は政令市の中で最も高齢化率が高く、いつまでも元気で自分らしく暮らせるまちづくり健康づくりを柱とした福祉の充実が最重要課題としてこれまでも取り組んできました。  
今年度も、「健康福祉モデル都市・北九州市」の実現を目指して、健康マイレージ事業による市民の自主的な健康づくりへの支援、子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種への公費助成、新たな「障害者スポーツセンター」の整備などを実施します。



**Q3.** 子育て・教育、福祉の充実を行っていますが、市の財政は大丈夫ですか？

**A3.** 子育て・教育、福祉の充実、少子・高齢化や地方分権の進展などの経済・社会環境の変化や、厳しい財政事情に対応しながら「元気発進！北九州プラン」に基づき、計画的に実施しているところです。  
その計画を実施するため、行財政改革を含む今後の市政の運営方針である「北九州市経営プラン」を平成20年度に策定しました。  
このプランに基づき、事業の「選択と集中」や経営改革を着実に進め、多様な行財政需要に対応する行政体制の構築を行うとともに単年度収支の均衡を図り、「持続可能で安定的な財政の確立」に努めています。



**Q4.** 便利な住みやすい街になったけど、そのために増えてしまった北九州市の借金は大丈夫なのですか？

**A4.** 市債の管理においては、事業の「選択と集中」を図り、市債の借入と償還のバランスを考慮しながら、将来世代の負担が過大にならないよう努めてきました。  
そのことにより、公共事業等の借金の残高は平成20年度から毎年着実に減り続けています。  
一方、臨時財政対策債という地方交付税の代わりに借入も含めた合計は増加していますが、この借金は後年に国が地方交付税として確実に措置することとなっています。



### 解説

(1)北九州市の市債残高について

臨時財政対策債を除いた平成23年度末残高は7,930億円で平成19年度末から393億円の減少となっています。

P7 市債残高や公債費の項も参照

